



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



## 小学校教職員を対象に「屋久島森の塾」を開催

— 屋久島の森林・林業を知る — (7月31日)

今年度からの新たな取組として、「屋久島森の塾」を7月31日、当センターにおいて開催し、屋久島町内の小学校教職員4名が参加されました。

本講座は、小学校教育の第一線で活躍されている教職員の皆さんを対象に屋久島の森林や林業をより一層理解して頂き、授業での積極的な活用など、森林環境教育の推進を目的に、屋久島町教育委員会および当センター、屋久島森林管理署が共催で実施しました。



屋久杉土埋木の重さを体感

当日は、屋久島における林野庁の取組の他、ドローン空撮を取り込んだ屋久島の森の不思議やヤクシカ被害の現状と対策、屋久杉土埋木の利用と価値などの講義と、森林生態系保護とシカ駆除をゲームで理解する「屋久島版シカと森林のカード」の実習、屋久杉と屋久島地杉の違いを体感するストラップ作りなどのカリキュラムで進められました。

参加された教職員の皆さんからは、「林野庁の取り組みがよく理解出来た」や「ゲームやストラップ作りなど楽しく参加出来た」「来年も参加したい」「沢山の人の参加して貰いたい」などの声が聞かれました。



国有林野事業の取組などを説明



ストラップ作りに奮闘中！

## レク森で夏休み親子森林教室を開催

(8月19日)

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の恒例行事のひとつである「夏休み親子森林教室」が、当センター、屋久島森林管理署、(公財)屋久島環境文化財団が協賛し、屋久島自然休養林の一つであるヤクスギランドにおいて開催され、児童、保護者ら26名が参加しました。

当日、海岸部は晴天でしたが、標高1,000mのヤクスギランドでは曇り空の後に雨が降り出す状況の中、4班に分かれて50分コースの散策をスタート。

ヤクスギランドのレク森職員らが、屋久島の気候



職員の説明を熱心に聞く参加者



屋久島の魅力を満喫した参加者の皆さん

や水、屋久杉や土埋木、貴重な植物や苔など屋久島の魅力を説明し、参加者らは魅力満載の屋久島の自然を肌で感じながら、充実した時間を過ごすことが出来ました。

また、参加者からは「丁寧な説明に、とてもよく理解が出来た」「屋久島の自然はすごい」などの貴重な自然を有する屋久島への理解を深めた声が聞かれました。

## 「屋久島レクリエーションの森」作文募集!

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、未来を担う屋久島の子供たちにレクリエーションの森として身近に親しみ森林の大切さを感じてもらい、併せてレクリエーションの森の普及啓発を行うため次のとおり小中学生の作文を募集します。

1. 募集する作品：ヤクスギランド、白谷雲水峡、大川の滝、千尋の滝、田代ヶ浜に関する作文
2. 募集対象者：屋久島町内の小学生・中学生
3. 募集作品の規格等：一人一点とし
  - ✎ 小学1～2年生・・・210字詰原稿用紙2枚～3枚
  - ✎ 小学3～6年生・・・400字詰原稿用紙2枚～3枚
  - ✎ 中学生・・・・・・・・・・400字詰原稿用紙3枚～4枚
4. 募集期間：平成30年9月3日(月)～9月28日(金)
5. 応募方法：原稿用紙の1行目に題名、2行目に学校名、学年、氏名を記入したうえで各学校に提出して下さい。

お問い合わせ先：屋久島町宮之浦 1593 番地 (屋久島町中央公民館内)

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会 (日高・内田)

TEL：0997-42-3508



# 種の境界には (第1回)

## —— 屋久島に分布するキイチゴたち ——

三村 真紀子 (玉川大学農学部 准教授)

初夏に屋久島の林道を歩いていると黄色や赤色の果実が目に入るかもしれません。キイチゴの類です。屋久島には、複数のキイチゴが分布しています。これまでの記録では、オオバライチゴ (リュウキュウバライチゴ)、リュウキュウイチゴ、バライチゴ (ヤクシマヒメバライチゴ)、ヒメバライチゴ、モミジイチゴ (ヤクシマキイチゴ)、ナワシロイチゴ、フユイチゴ、コバノフユイチゴ、ハウロクイチゴの9種類が分布しています。カッコ内で表記しているのは、変種名です。変種とは、違う種というほどでもないけれども、すこし形が変わっている、というグループに名前がつけられたものです。屋久島の多くの固有種や固有変種は、比較的標高の高い所に生息しています。これは、屋久島が九州最高峰の山地をもち、他の土地とは隔離された冷涼な環境を持っているからだと考えられます。生物は、他の集団と長らく交流が途絶えると、徐々に独自の進化をしていきます。山で孤立して長らく過ごすうちに、少しずつ形が変わってきたのかもしれません。



図1. 左:ヤクシマキイチゴ(モミジイチゴ) 右:リュウキュウイチゴ

屋久島ではヤクシマキイチゴと呼ばれるキイチゴも、本州ではモミジイチゴあるいはナガバモミジイチゴと呼ばれる *Rubus palmatus* の変種です。ヤクシマキイチゴは、葉裏が赤いのが特徴的です。ヤクシマキイチゴも、屋久島の比較的高い標高帯の林道沿いなどの林縁にみられます。葉っぱの色形は異なりますが、遺伝的には、鹿児島や宮崎のナガバモミジイチゴ (同じモミジイチゴ) と大変似ています。

モミジイチゴ (ヤクシマキイチゴ) は、屋久島が分布の南限となります。屋久島は、他にも多くの温帯植物の分布の南限となっています。一方で、屋久島や種子島を北限とする種もいます。例えば、主に西南諸島に分布するリュウキュウイチゴです。キイチゴは、たくさんの種が属する

とても大きな分類群なのですが、実は、モミジイチゴとリュウキュウイチゴは、姉妹種とよんでよいくらいに近縁です。屋久島は、遺伝的には兄弟のような関係にありながら、性格はかなり異なるこの2種が生き抜く舞台となっています。今回は、この2種がどんな歴史を経て屋久島に分布したのか、屋久島でどのような関係を築いているのかをお伝えします。(つづく)

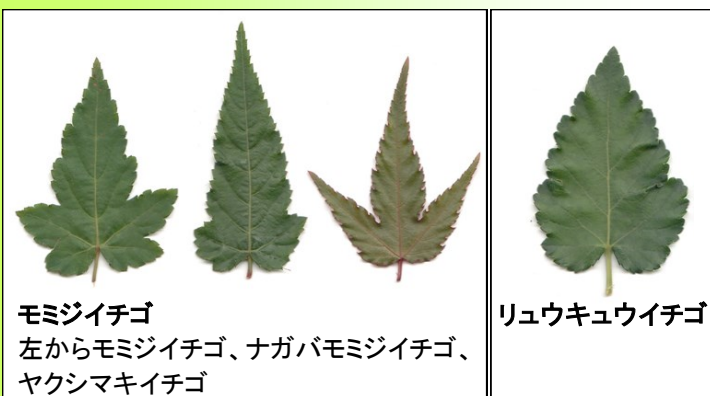


図2. モミジイチゴとリュウキュウイチゴの葉形



### 屋久島の植物

イソノキ (クロウメモドキ科)

本州以南、日本列島では屋久島まで分布する落葉小高木。ヤクスギ帯以上の湿った谷で見られる。花期(6~8月)より果期(8~11月)に目立つ。直径6mmほどの果実ははじめは赤くやがて黒くなる。

# 屋久島生態系モニタリング



## 屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

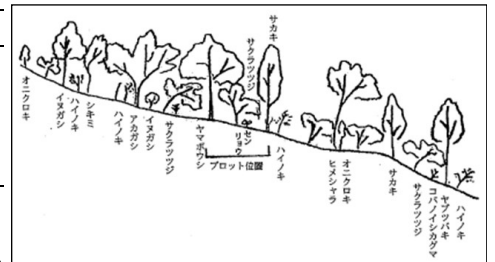
### ●標高 1000m プロット（愛子岳東側斜面）

林齢 164 年生の天然林。尾根の北側なのでそれほどではないが、この周辺の尾根上から南西～南東向き斜面にかけては、台風時の暴風と冬季の積雪影響で、斜立木や梢端変形木が多い。なお、プロット周辺には、古い時代に伐られた天然性のスギ伐株が見られることより、何らかの人為的利用に供していた二次林と推測される。その影響かどうかは定かではないが、胸高直径が 50cm を超える大径木は、ヤマグルマ以外にはスギ、ヒメシャラが 1 本ずつだけである。



標高 1000m プロットの林相

階層区分	2001年	2006年	2011年	2016年
高木層(6.0m以上)	ヤマグルマ	ヤマグルマ	ヤマグルマ	アカガシ
亜高木層(3.0～6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2～3.0m)	イヌガシ	イヌガシ	ハイノキ	ハイノキ
草本層(1.2m未満)	ハイノキ	ホコザキベニシダ	ハイノキ	ハイノキ



群落縦断面図

### 【概要】

- 依然としてヤマグルマ－ハイノキ群集。落葉広葉樹であるカナクギノキは、愛子岳全標高のプロット内で記録がなくなった。落葉広葉樹であるタンナサワフタギ、ナナカマドが出現するのもこの林分の特徴。プロット外ではスギ、ヒノキが周辺に出現。高木の樹幹に多くのコケ類、シダ類が着生しているのもこの林分の特徴である。
- ヒメシャラやヤマグルマ(傾斜)の大木も見られる。ヤマグルマにはナナカマドなども着生している。低木層や草本層にはハイノキが多く、オニクロキ、ヒメシャラの幼木が目立つ。
- 5年前と比較すると、注意して見ないとほとんど食害に気づかないほどの軽微な痕跡だった。



ヤクシマガクウツギの食痕

## 学習の成果を堂々と発表

小瀬田小学校 6年生担任 馬場園 哲也

7月30日(月)～31日(火)、福井県福井市において「平成30年度学校の森・子どもサミット夏大会」が開催され、小瀬田小学校6年生の上村結愛さん、椎葉李良子さんの2名が代表として参加しました。

この子どもサミットは、全国から集まった児童たちによる身近な森林などを活用した体験学習の発表や教師と有識者による意見交換などを通して、子どもたちの「生きる力」を育む森林環境教育の活動の輪を全国に広げていくことを目的としたものです。

小瀬田小学校では、これまで総合的な学習の時間において、屋久島の「豊かな自然」(環境教育)「伝統文化」(屋久島の人々が築いてきたもの)をテーマに据えて学習しています。



全国から集まった児童たち

6年生は、屋久島固有の自然環境とツマベニチョウについて自分たちで調べたり、専門家であるゲストティーチャーとして、屋久島森林生態系保全センターや屋久島総合自然公園の皆さんから、屋久島の自然の魅力などを学んだりしました。

今回のサミットでは、この学びの成果を発表してきました。また、本校代表の2名は、500名を超える全国から集まった参加者、傍聴者を前にしても臆することなく、堂々と発表しました。